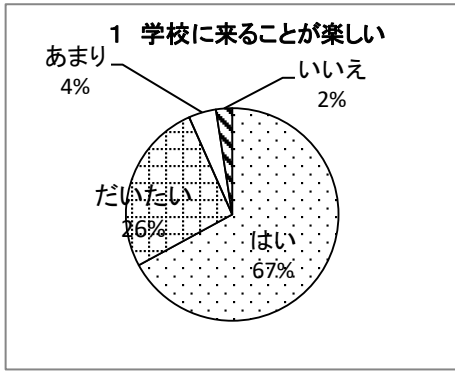
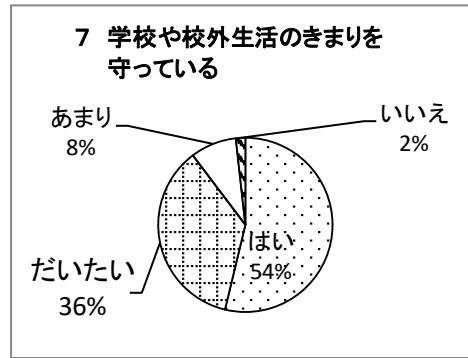


神川小学校の子どもたちによる「よりよい学校を作るためのアンケート」集計報告

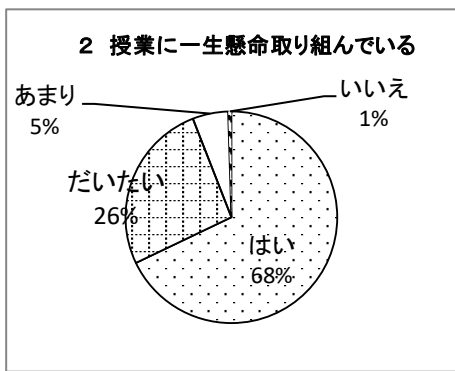
令和2年二学期末、1～6学年の本校児童に「よりよい学校を作るためのアンケート」を実施しました。児童の回答について集計した結果をご報告いたします。



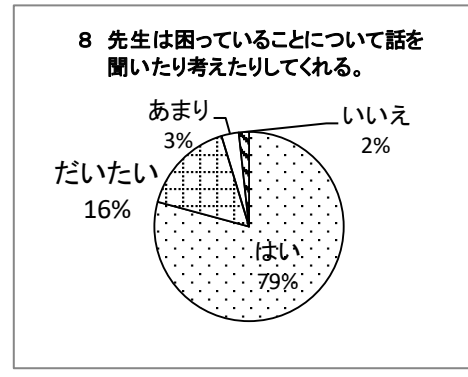
学校に来ることに肯定的な児童が9割を超えています。学校で学習したり、遊びなどで友達と関わることに喜びを感じている児童が多いという結果が出ました。ただ、学校に来ることに否定的に感じている児童が6%ほどいるため、早急にその児童たちを把握し的確に支援する必要があります。



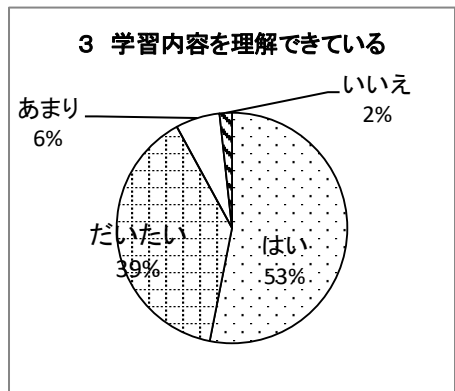
「きまりを守って生活している」と感じている児童が9割とおおむねきまりよい生活ができています。ただ、ときどき地域の方々から登下校のしかたや遊び方などでご注意をいただくことがあります。校内生活や家庭生活だけでなく、子どもたちが校外で過ごすマナーについて今まで以上に意識を向けられるような支援が必要です。



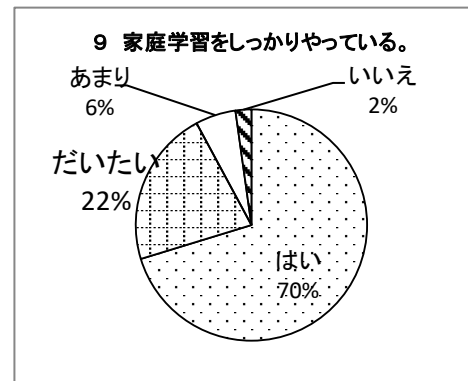
毎日行われている授業に、ほとんどの子どもたちが意欲的に取り組んでいます。一生懸命に授業に取り組んでいる児童の意欲をさらに高めたり、授業に対して消極的な児童がやりがいを感じたりすることができるように、児童が主体になり、お互いに関わり合いながら、新しい発見をしたり様々な発想が生まれたりする授業を目指していきます。



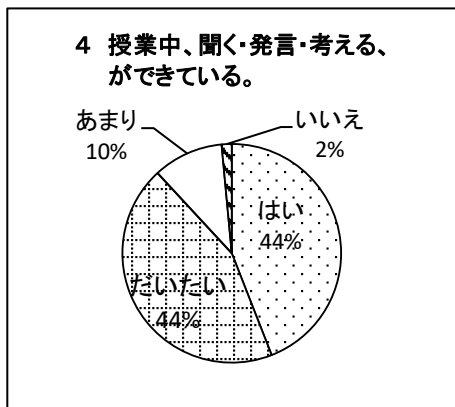
本校職員、特に学級担任に対する児童の意識は、おおむね肯定的に受け取られているようです。「あまりそう思わない」「そう思わない」と感じている児童が全体の5%ほどいますので、その児童に対しては個々に話を十分に聞きしっかり寄り添っていく必要があります。



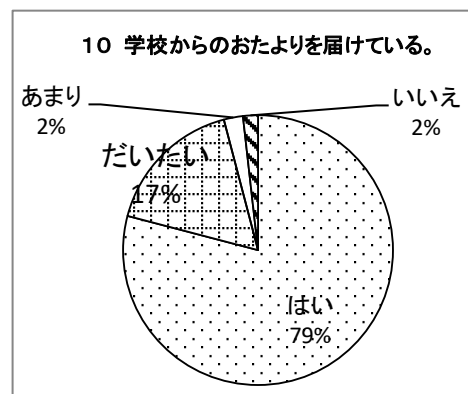
授業の内容が理解できていると答えた児童が9割を超えていますが、自分の学力に不安を感じている児童が約8%という結果でした。「2」の授業改善とともに、全ての子どもたちの学力を保证するために、個に応じた学習支援の工夫や少人数学習などの授業形態の工夫が必要であると思われます。



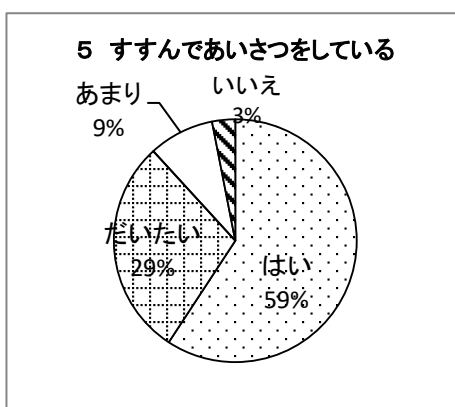
家庭学習に関わってはおおむね良い結果と言えます。さらに向上するために、学校職員が子どもたちに出す宿題内容の精選や、保護者の方々にご協力いただき家庭学習を行う時間を決めたり見守ったりしていただくことなど、学校職員と保護者の方々との連携を充実させることが大切です。



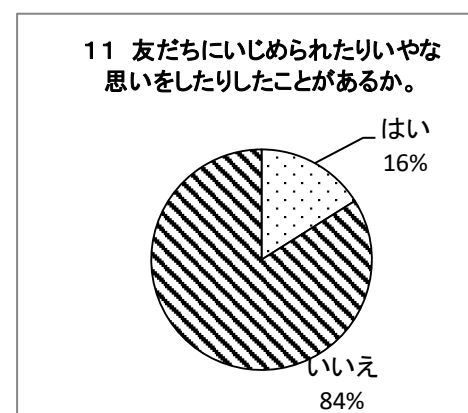
「2」では「授業に一生懸命取り組んでいる」と答えた児童が多い反面、「聞く、発言する、考える」という内容になると「はい」と答えた児童が20%以上も減ってしまいました。受け身の授業ではなく、子どもたちが自らの考えを発信することに喜びを感じることができるような授業への改善が必要であると思われます。



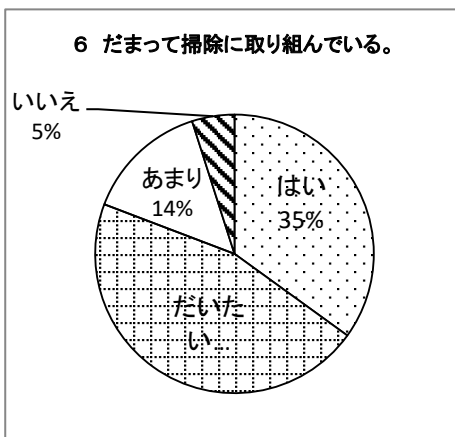
学校からのおたよりについては、保護者の皆様のご協力もあっておおむね良い結果でした。連絡ノートやお便りを入れるケースなどを使って学校職員と保護者の皆様との連絡方法が確立している結果と言えます。



あいさつに関わって、児童はおおむね自分からすずんで行っているという意識が高い結果が出ました。ただ、保護者の方々や本校職員など大人の意識と比較すると、「大人があいさつをしてもあいさつが返ってこない子がいる」など意識のズレが生じているように思われます。子ども同士・家人・学校職員など身近で関わりの深い人とのあいさつだけでなく、地域の方にも意識を向けられるような手立てが必要と思われます。



友だちとの関わりで「いじめられた」「いやな思いをした」と答えた児童が10%を超え、昨年度に比べて若干増えているのが気になります。個々に話を聞きながら、具体的にどんなことをされたのか、現在の状況はどうなのかを相談ウィーク等で早急に対応しました。



本校は「無言清掃」を実施している関係上、落ち着いて清掃に向かう児童が多くなっています。子どもたちがきまりとして無言清掃を行うだけでなく、子どもたち自身が「学校をきれいにするために無言清掃に取り組もう」という意識をさらに高めていく工夫が必要です。

上記の結果を踏まえ、子どもたちにとってよりよい学校になるよう、本校職員一同必要な支援指導を行って参りたいと思います。また、ご家庭でも今回の結果をお子様とともに話題にしていただければと思います。